

横浜能楽堂企画公演

馬場あき子と行く歌枕の旅

- 第1回 陸奥国・外の浜
令和2年10月10日(土) 午後2時開演(午後1時開場)
能「善知鳥」(観世流)野村四郎
- 第2回 信濃国・園原
令和2年11月22日(日) 午後2時開演(午後1時開場)
能「木賊」(金春流)櫻間金記
- 第3回 近江国・逢坂
令和2年12月19日(土) 午後2時開演(午後1時開場)
能「蟬丸」(観世流)大観文蔵 浅見真州
- 第4回 上野国・佐野
令和3年1月23日(土) 午後2時開演(午後1時開場)
能「船橋」(宝生流)金井雄資
- 第5回 美濃国・野上
令和3年2月20日(土) 午後2時開演(午後1時開場)
能「班女」(喜多流)香川靖嗣

チケット料金
セット券(全5回): S席33,000円/A席28,000円/B席23,000円
単独券: S席7,000円/A席6,000円/B席5,000円

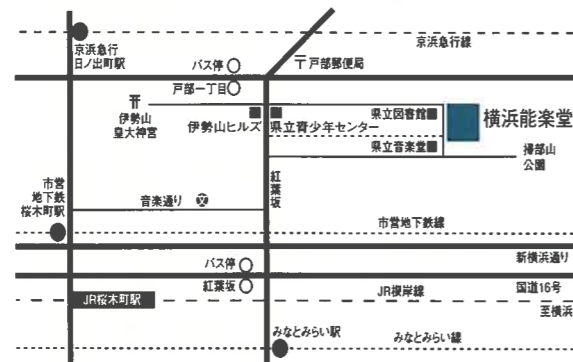
チケット発売
セット券: 令和2年7月18日(土) 正午から
単独券: 第1回 令和2年8月22日(土) 正午から
第2回 令和2年9月26日(土) 正午から
第3回 令和2年10月31日(土) 正午から
第4回 令和2年12月5日(土) 正午から
第5回 令和3年1月9日(土) 正午から
※セット券・単独券ともに初日は電話・Webのみの取り扱いとなります。
※発売初日にチケットが売り切れた場合、窓口での販売はありません
※セット券の販売枚数には限りがございます。

お申込み・お問合せ: 横浜能楽堂 045-263-3055
〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘 27-2
Web: <https://yokohama-nohgakudou.org/>

横浜能楽堂 🔍 検索

※今後の新型コロナウイルスの感染状況や政府方針等によっては、日程・内容等が変更になる場合がございます。
最新の情報は横浜能楽堂ホームページをご確認ください。

主催 横浜能楽堂(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)
助成 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会



交通のご案内
◇電車利用: JR根岸線「桜木町」北改札下車徒歩15分/市営地下鉄線「桜木町」南1出口下車徒歩15分/みなとみらい線「みなとみらい」下車徒歩20分/京浜急行線「日/出町」下車徒歩18分(タクシー利用は各駅とも約5分)
◇バス利用: 戸部1丁目(市営バス:103、292系統)下車徒歩5分/紅葉坂(市営バス:8、26、58、101、105、106系統/神奈中バス:横43、横44、港61系統/江ノ電バス:大船駅行、栗木行/京急バス110系統)下車徒歩10分
※駐車場はございませんので、ご来場の際は電車・バスをご利用下さい。※内容・出演者に変更がある場合がございます。あらかじめご了承下さい。※会場への飲食物の持ち込みはご遠慮下さい。※お問い合わせいただいたチケットは公演中止の場合を除き、変更払い戻しはいたしません。※公演中止の場合に旅費等の補償はできません。チケット券面額以外は一切ご返金できません。
〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘27-2 tel: 045-263-3055

「歌枕」とは和歌にしばしば詠まれた名所・旧跡のこと。現在では、顧みられることが少ない場所も多いですが、「歌枕」は和歌に詠み込まれることで、自然や伝説など特定のイメージを叙情性豊かに連想させ、古代・中世の歌人にとっては憧れの場所でした。そのような「歌枕」の地は多くの能の作品の舞台ともなっています。

本公演では、都から陸奥を結んだ東山道に存在する歌枕を舞台とする能を5回シリーズで上演。作品上演前には歌人で文化功労者の馬場あき子が、「歌枕」の地や詠まれた歌などについて講演します。土地を知り、歌を知ることによって、能をより味わい深く堪能できる公演です。

第1回 陸奥国・外の浜 令和2年10月10日(土)

午後2時開演

みちのくの 外が浜なる 呼子鳥
鳴くなる声は うとうやすかた

作者不詳

生前、善知鳥(うとう)と呼ばれる鳥を獲り、殺生をし続けた罪で地獄に墮ちた獵師。化鳥となった善知鳥に責められる苦しみを僧に訴えます。

外の浜は現在の青森県青森市を中心とした陸奥湾沿岸部を指し、陸地の最果ての意味を持つ「率土之浜(そつとのひん)」からその名がついたとも考えられています。親鳥がウトウと鳴くと、子の鳥はヤスカタと答える、親子の情が深い鳥が住む、善知鳥安方伝説の地として知られています。

講演 馬場あき子

能「善知鳥」(観世流)

シテ(亡者・獵師の霊) 野村 四郎
ツレ(獵師の妻) 清水 義也
子方(千代童) 清水 義久
ワキ(旅僧) 工藤 和哉
アイ(浦人) 山本 則孝
笛：一噌 隆之
小鼓：幸 正昭
大鼓：國川 純
後見：寺井 栄 浅見 慈一
地謡：浅井 文義 野村 昌司
長山 桂三 坂 真太郎
武田 文志 青木 健一
小早川泰輝 武田 崇史

第2回 信濃国・園原 令和2年11月22日(日)

午後2時開演

園原や伏屋に生ふる帚木の
ありとは見えてあはぬ君かな

坂上是則

わが子と生き別れになった老翁は、子を思うあまり狂乱となり、形見の衣装を纏って舞を舞います。

園原は現在の長野県下伊那郡、東山道一の難所として知られた神坂峠を越えた麓あたりの地名です。「枕草子」に「原は みかの原、あしたの原、その原」と書かれているほか、古くから帚木、木賊、伏屋といった言葉とともに歌に詠まれ、「源氏物語」第二帖「帚木」の名の由来ともなっています。

講演 馬場あき子

能「木賊」(金春流)

シテ(老翁) 櫻間 金記
ツレ(里人) 政木 哲司
ツレ(里人) 柴山 暁
子方(松若) 水上 嘉
ワキ(旅僧) 宝生 欣哉
ワキツレ(従僧) 則久 英志
ワキツレ(従僧) 御厨 誠吾
笛：一噌 庸二
小鼓：観世新九郎
大鼓：國川 純
後見：金春 安明 横山 紳一
山中 一馬
地謡：本田 光洋 高橋 忍
金春 憲和 辻井 八郎
山井 綱雄 井上 貴覚
本田 芳樹 本田布由樹

第3回 近江国・逢坂 令和2年12月19日(土)

午後2時開演

逢坂の関の清水に影見えて
今やひくらむ望月の駒

紀貫之

盲目のため捨てられた醍醐天皇の第四皇子・蟬丸は、逆さまに生い立つ髪を持つ故に狂乱となった姉宮・逆髪と逢坂山で再会。互いの境涯を嘆き、そして別れます。

逢坂の関は、都・京都と近江国(現在の滋賀県)の境にあった関所。646(大化2)年~795(延暦14)年と、関が設置された期間は短いです。交通の要所として知られ、「逢ふ」という言葉から、人と人とが出会う場所として歌に詠まれました。

講演 馬場あき子

能「蟬丸」(観世流)

シテ(逆髪) 大槻 文藏
シテ(蟬丸) 浅見 真州
ワキ(清貴) 森 常好
ワキツレ(興弁) 館田 善博
ワキツレ(興弁) 梅村 昌功
アイ(博雅三位) 野村 万作
笛：松田 弘之
小鼓：曾和 正博
大鼓：白坂 信行
後見：赤松 禎友 武富 康之
大槻 裕一
地謡：浅井 文義 小早川 修
浅見 慈一 武田 友志
武田 文志 武田 宗典
武田 祥照 武田 崇史

第4回 上野国・佐野 令和3年1月23日(土)

午後2時開演

上野の佐野の船橋取り放し
親は放くれど我は離るがへ

万葉集・東歌

人目を忍び、船橋を渡って愛する女のもとへと通っていた男。親はそれを嫌い橋板を取り外します。知らずに川へと沈み、妄執の罪から地獄へ落ちた男の霊は、僧に苦しみを訴えます。

佐野の船橋は、現在の群馬県高崎市に流れる烏川にかかっていたとされ、船橋とは、船を繋ぎ、その上に板を渡して橋としたもの。古来より男女の悲恋の物語とともに知られ、歌に詠まれてきました。

講演 馬場あき子

能「船橋」(宝生流)

シテ(男・男の霊) 金井 雄資
ツレ(女) 小倉伸二郎
ワキ(山伏) 大日方 寛
ワキツレ(山伏) 館田 善博
アイ(所の者) 中村 修一
笛：竹市 学
小鼓：成田 達志
大鼓：安福 光雄
太鼓：大川 典良
後見：今井 泰行 小倉健太郎
地謡：朝倉 俊樹 大友 順
水上 優 高橋 憲正
當山 淳司 金森 良充
金森 隆晋 田崎 甫

第5回 美濃国・野上 令和3年2月20日(土)

午後2時開演

一夜かす野上の里の草枕
結び捨てける人の契りを

藤原定家

扇を取り交わした男を忘れられず、他の客の座敷に出ようとしないう野上宿の遊女・花子。宿から追い出され、物狂いとなり、都・賀茂社へ辿り着いた花子は男を想い舞を舞います。

野上宿は、現在の岐阜県不破郡関ヶ原町あたりにあったとされる宿場。「更級日記」に「野上といふ所に着きぬ。そこに遊女ども出で来て、夜一夜歌うたふにも」とあり、遊女に関係する歌が多く詠まれています。

講演 馬場あき子

能「班女」(喜多流)

シテ(花子) 香川 靖嗣
ワキ(吉田少将) 森 常好
アイ(野上宿の長) 山本泰太郎
笛：松田 弘之
小鼓：観世新九郎
大鼓：亀井 広忠
後見：中村 邦生 友枝 雄人
地謡：友枝 昭世 粟谷 能夫
長島 茂 内田 成信
金子敬一郎 佐々木多門
大島 輝久 友枝 真也



馬場あき子

歌人。歌誌「かりん」主宰。「朝日歌壇」選者。古典、とりわけ能への造詣が深く、新作能「晶子 みだれ髪」「額田王」などを発表。著書に「鬼の研究」「能・よみがえる情念」等多数。1977年「桜花伝承」で現代短歌女流賞、2002年度日本芸術院賞受賞ほか多数受賞。1994年紫綬褒章受章。2019年文化功労者。日本芸術院会員。

